

洲本市学校施設長寿命化計画（改訂・概要版）

1. 概要

（1）背景・目的

①背景

本市の学校教育施設は、市有建築物全体の延床面積のうち、約3割を占めており、延床面積約9万㎡を有し、市有建築物として最大の面積を保有しています。これらの施設は昭和40年代から昭和50年代にかけて建築された施設が多く、今後30年間に一斉に更新時期を迎えるため、順次更新していかなければなりません。

今後、人口減少や少子高齢化の進展により、財政状況がより厳しくなることが予想され、学校施設を可能な限り長期に使用し、施設整備コストを抑制していくために長寿命化を導入した学校施設整備の方針・計画を検討していく必要があります。

②目的

老朽化が進む学校施設の現状と課題を把握し、事後保全から計画的な予防保全へと管理手法を転換することで、施設の機能を維持しながら、これまで以上に長く使い続けることにより、財政負担の縮減や平準化を図っていくことが必要です。

以上を踏まえ、上位計画である洲本市公共施設等総合管理計画等との整合を図りつつ、「洲本市学校施設長寿命化計画」（以下「長寿命化計画」という。）を策定します。

当初の計画は、令和7年度までを計画期間として令和3年3月に策定しましたが、以後の老朽化の進行状況等を反映し、見直しを行うことで、令和12年度までを計画期間とする内容に改めます。

（2）計画期間

令和8(2026)年度から令和12(2030)年度まで(5年間)

（3）対象施設

全学校園 19 施設、145 棟、延床面積約 9 万㎡
(小学校 13 校、中学校 5 校、幼稚園 1 園)

2. 長寿命化とは

これまででは、築40年程度で改築(建替)することを想定していましたが、施設をできるだけ長く使用するために、耐用年数を延ばす考え方のことです。

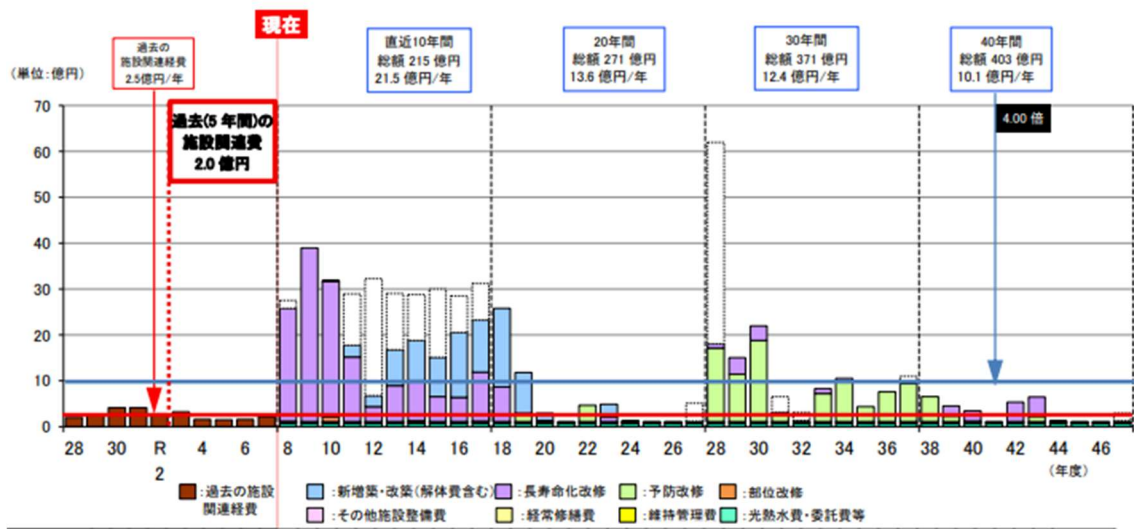
3. 施設整備の基本方針

コスト比較の結果も踏まえ、中長期における総額が最も抑制できると認められる「従来型(改築)+長寿命化型(改修)」の考え方を基本として、今後の施設整備計画を進めるものとします。

〈更新周期〉

- 築 20 年周期 予防改修工事
- 築 40 年周期 長寿命化工事
- 築 80 年周期 改築工事

○今後の維持・更新コスト(従来型+長寿命化型)



4. 今後の課題、取り組み

従来型+長寿命化型への転換により、従来型よりもコスト軽減できるものの、過去の整備費と比べると整備費の増加が見込まれるため、国の動向を注視しつつ、国庫補助事業を最大限に活用していきます。

また、児童生徒数の減少に伴い、今後進められる学校再編に向けた取組を加味していきます。

○五色地域小学校における学校再編の方向性を考慮した試算結果

従来型+長寿命化型+学校再編（5校統合）

